

## ミュンヘン自転車展参観報告及び同市内自転車小売店調査

### 1. ミュンヘン自転車展 (F.re.e)

標記展示会は自転車単独ではなく、自転車の他、観光旅行、ウェルネス、乗馬、キャンプ、水上スポーツ、ボート及びスポーツ&アウトドアの各分野からなる、1970年から続く消費者向けの総合レジャー展である。

#### 【F.re.e】

主催： Messe Muenchen GmbH

会場： 新ミュンヘン国際見本市会場

会期： 2010年2月18日(木)～22日(日) 10:00～18:00

使用ホール： 自転車及びスポーツ&アウトドア；ホール A6、乗馬；ホール C4、  
観光旅行；ホール B5、A4 及び A5、ウェルネス；ホール A5、  
キャンプ；ホール B4、水上スポーツ及びボート；ホール B6  
合計 8 ホール、70,000 m<sup>2</sup>

入場者数： 計 100,000 人

出展社数： 計 54 カ国 1,500 社（うち自転車関連出展者 58 社 ※出展ガイドより集計）



メッセ東入口



ホール A6 の様子

同展はメッセ全 16 ホール中、7 ホールを使用し、並行開催の貴金属・宝飾展が残りの 9 ホールを使用するなど来場者が多かった。このため、メッセに向かう地下鉄車内や駅周辺から既に人で溢れていた。主催者によると、今回は特に自転車とウェルネスについて来場者の注目が高かったと述べている。

自転車の展示は、スポーツ&アウトドアと共にホール A6 のみであり、電動アシスト自転車や MTB の試乗コースを除くと、実質的な自転車関連出展者の面積は同ホールの半分程度であった。主な出展ブランドはコガ、ウィノーラ及びシンプロンなどで、出展者数で見れば他地域の消費者向け展示会に比べ寂しい内容であった。一方で、自転車小売店が大きな小間を持ち大きな面積を占めており、これらの巨大な小売店ブースには数多くの自転車・部品や付属品が並び、それらは割引価格により即売もされていたため、当日の会場内は品定めをする来場者で盛況であった。



自転車小売店（Stadler）ブース



バイエルン・ミュンヘン仕様の特価車

電動アシスト自転車は、上記コガとウィノーラに加え、規模は小さいがフライヤー、ラリー、ダイヤモンド、スパルタ、R&M 及び電動アシストユニットの BionX などが見られ、更に Veelo Pedelecs は新しいユニットの電動アシスト自転車を出展していた。各小売店の小間や試乗コーナーで同車種を熱心に吟味する来場者の姿も多く見られ、当地でも消費者の注目が高まっている。

来年は 2011 年 2 月 23～27 日にかけて開催予定である。



電動アシスト車（左；Veelo Pedelecs、右；ウィノーラ）

## 2. ミュンヘン市内自転車小売店調査

### 調査店舗①

中央駅から徒歩 15 分程の距離にある ZEG(独自自転車共同購入組合)メンバーの大型店。自転車の総数は在庫分まで入れると約 3,000 台にも達し、市内周辺にある系列の 3 店舗のうち最大の店舗は、6,000 台もの在庫があるとのことであった。店内は地上階に MTB、ロードレーサーのスポーツ車と部品、付属品、2 階にシティ車、トレッキング車、地下に子供車、幼児車を展示していた。なお、同店は上記展示会にも小間を出展していた。



調査店舗①



付属品売り場



トレッキング車売り場



MTB 売り場

更に電動アシスト自転車については、別室の専用売り場に 30 台展示されていた。この売り場だけでも小型店舗並みの面積を有し、電動アシスト自転車用チラシや無料試乗クーポンも用意するなど、その内容の充実度には目を見張るものがあった。売り場担当者によると、ミュンヘンでも同車種は、人気が出始めたところであり、これからの販売増加にも期待が持てると述べていた。



別室の電動アシスト自転車専用売り場

## 調査店舗②

キャノンデールとスペシャライズドの専門店。展示台数は30台程、すべてスポーツ車で価格帯は1,500~2,000ユーロ(184,500~246,000円)が中心。3,000ユーロ(369,000円)近い高額車もあった。店内は天井が高く自転車の陳列も余裕をもった展示であった。また、5台程、下取り車と見られるキャノンデールの中古車もあったが、1,000ユーロ(123,000円)を超える高価なものが多かった。



店内の様子

## 調査店舗③

シティ車やトレッキング車を中心に約100台。オリジナルブランド車も見られた。また、カラフルなダッチバイクやビーチクルーザーなども充実していた。中心価格帯は500~1,000ユーロ(61,500~123,000円)で、更にそれらの自転車に適した茶系のサドル、グリップ等の付属品も充実していた。欧米ブランドの高級スポーツ車は殆ど無く、スポーツ車では、黒フレームのVSF Fahrrad(自転車小売組合ブランド)のトレッキング車が揃っていた。なお、JBG(日本自転車関連製品カタログ)に関心を示したため、手持ちの冊子を手渡し日本製品について説明を行った。



調査店舗③



店内の様子



ビーチクルーザーやダッチバイクもある



扱う自転車に併せ茶系のパーツが充実

#### 調査店舗④

MTB、トレッキング車を中心に 30 台程の小型店舗。市内に他に 2 店舗あるがすべて同様の小型店とのこと。MTB では GHOST、トレッキング車ではガゼレが中心となっており、電動アシスト自転車の取り扱いは無かった。



調査店舗④



売り場の様子

### 調査店舗⑤

子供車と幼児車が中心の小型店。店頭の子供向けの付属品が山積みされ、一見すると玩具店のようにも見た。奥の別室に大人用自転車が 50 台程あり、価格は 500 ユーロ前後 (61,500 円) のものが多かった。子供車と幼児車の両車種は約 100 台。電動アシスト自転車は、スラムのユニットが付いた旧式のものが見本として 1 台のみであった。顧客より注文があった場合には取り寄せるが、今後も積極的に取り扱う予定は無いと店主は語っていた。



調査店舗⑤



店内の様子



奥の別室の売り場（左；幼児車、右；トレッキング車、MTB 類形車が中心）

### 調査店舗⑥

売り場が隣接する 3 店舗に分かれた中規模店。本店はウィノーラ、ヘラクレス及びガゼレを中心としたシティ車、トレッキング車と部品、付属品の売り場となっており、通常店員は本店におり、顧客の要望により、普段は無人で鍵のかかった他の店舗（売り場）を公開するユニークな営業形態である。

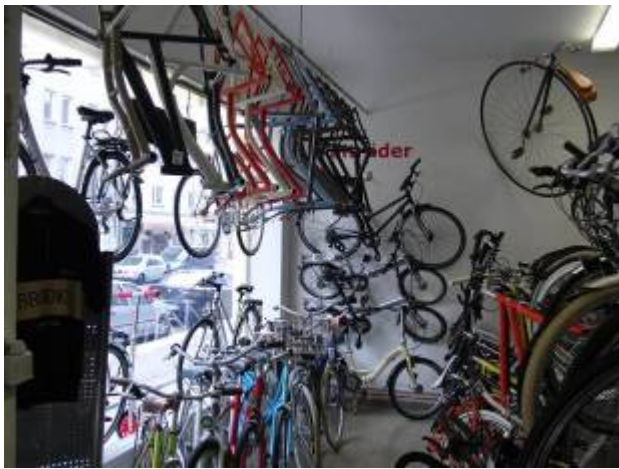
隣接するスポーツ車売り場には Haibike や Scott の MTB を中心に 70 台程。更に、通りを挟んだ向かいには電動アシスト自転車 10 台、BMX30 台及び幼児車、子供車計 100 台程の売り場があった。こちらも通常は無人で施錠されて、向かいの本店から店員を呼ぶ必要があるが、当日は各売り場で自転車の購入検討中の家族連れや修理依頼の客などで、冬季の閑散期とは思えぬほど、店内は活気に溢れた様子であった。



調査店舗⑥



電動アシスト自転車売り場



本店の売り場はシティ車、トレッキング車が中心



隣接するスポーツ車売り場はMTBが多い

### 調査店舗⑦

KTMを中心にシティ車50台、トレッキング車50台程の小型店舗。ここでもカゼレのダッチバイクが見られた。当日、電動アシスト自転車は見られなかったが、2009年分の販売は好調のうちに終了し、新モデルの入荷待ちとのことであった。



調査店舗⑦



付属品売り場



トレッキング車が主体



ここでもダッチバイクが見られた

### 3. まとめ

ドイツ南部地域でも比較的平坦といわれるバイエルン州都ミュンヘンでは、電動アシスト自転車普及は、同じ南部のバーデン・ビュルテンブルク州シュトゥットガルト程ではないかと思われたが、実際に上記展示会や小売店で同車種を頻繁に目にし、専門の売り場を設け注力する小売店もある等、同地にも普及が始まっていることが分かった。

当日は舗装路の雪は殆ど解けていたものの、まだ寒さ厳しい冬季であったが、自転車通勤者が修理のため帰路に店に立ち寄る姿が度々見られた。また、自転車購入のために来ている人々も数店で見かけた。更に上記店舗以外でも修理専門道を2か所訪ねたが、どちらもお客が持ち込んだ自転車の修理作業中であった。

スポーツ車需要が高いとされている同地域であるが、実際の店頭にはシティ車も多く、従来はオランダに隣接するドイツ西部地域で人気があるダッチバイクも多くの店に置かれていたことは意外であった。

以上

(デュッセルドルフ事務所)